

高総体
結果
陸上

【男子】4×400mリレー
200m・三段跳び
【女子】400m・400mH

祝 5種目が上位大会へ
北九州大会出場

静寂から歓声へ — 北九州への切符を掴んだ一瞬

西陵
高校
新聞

発行
長崎県立西陵高等学校
新聞部
部員
〔3年生〕
陣野斗哉・山下柚乃
甲斐怜奈・木下兆太

〔1年生〕
池 湖子・森崎帆花
荒島 暁・中山璃子
上村心椰・柿川七海



選手たちは日々の努力の成果を発揮し、自己記録を更新。緊張の連続で、最後の1走は、力強い走りを見せた。観る者の心を揺さぶる瞬間があった。



女子400m
中山さん5位

幸那7日、実施され、決勝は林予選2位、決勝は林勝選2位、決勝は林北九州大会出場、決勝は林

女子400m
林さん4位

包摂する者たち、強い気配を放ち、静寂を破る。選出された選手たちは、勝利の喜びを分かち合っている。

「悔しい、悔しい、悔しい。でも、悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。」

「悔しい、悔しい、悔しい。でも、悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。」

「悔しい、悔しい、悔しい。でも、悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。」

男子三段跳び
中尾さん4位



中尾さん、悔しいながらも、悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。

北九州大会出場を決めた。結果は、見事4位と決めた。北九州大会出場を決めた。

男子4×400mリレー
4位



「悔しい、悔しい、悔しい。でも、悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。」

「悔しい、悔しい、悔しい。でも、悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。」

「悔しい、悔しい、悔しい。でも、悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。」

「悔しい、悔しい、悔しい。でも、悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。」

「悔しい、悔しい、悔しい。でも、悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。」

「悔しい、悔しい、悔しい。でも、悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。」

男子200m
久保さん5位

久保さん、悔しいながらも、悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。悔しいからこそ、次はもっと頑張りたい。

団体3回戦進出

シード校に気迫で向かう

仲間と紡いだ一本の重み



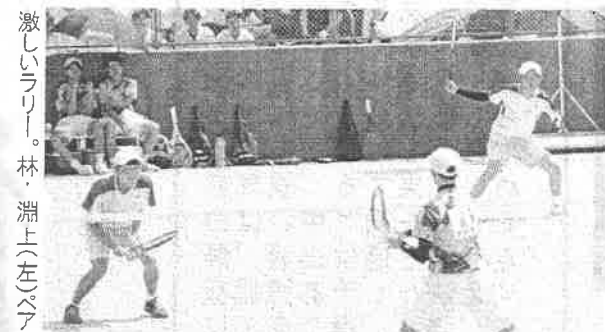
戦し、3-0で勝利した。2回戦は松浦高校と対戦し、3-0で勝利した。3回戦はシード校である大村工業高校との対戦となるが、勝つ気持ちで挑み、「3」と意気込みを語った。3回戦では相手の力強い攻撃に対し果敢に挑んだが、惜しくも0-1で敗退した。佐田さんと城戸子龍さん(2-1-2)は「あまり緊張することなく、自分たちらしいプレーを発揮することができた。」

佐世保総合テニス競技は6日から4日間、
われた。選手たちは団体戦・個人戦の両
面で挑戦を続けた。強豪校との対戦とい
う厳しい条件の中でも、最後まで自分た
ちらしいプレーを貫き、仲間との信頼を
力に変えて戦い抜いた。その姿には、結
果以上に価値ある経験と成長が表れてお
り、次へとつながる確かな手応えを感じ
させる大会であった。

8

「気持ちで負けないことを意識していた」と試合を振り返った。

個人戦には全5ペアが出場し、そのうち4ペアが2回戦へ進出した。佐藤圭吾さん（1ー16）・末次舜さん（1ー4）・アは「2回戦ではスピード校に對し、挑戦する気持ちを持って最後まで戦い抜いた。納得のいく結果には至らなかったが、チームのためにベストを尽くすことができた」と語った。今後の目標について「個人戦で九州大会ベスト8を目指している」。



湍しい三ツり、林・湍上(左)ペア

(柿川)

団体戦1回戦敗退

シングルス 福島さん3回戦進出

・スマッシュに宿る勝利への執念

女子バドミントン部は個人戦・団体戦の両面で、それぞれ部の力とチームの結束を発揮し大会に挑んだ。3年間の努力の集大成となる舞台で、選手たちは一球一勝敗を超えて見せたのは、強く戦い抜いた。球に思いを込め、粘り、仲間の信頼と支え合いの絆であり、その姿は観る者の胸を打つものであった。

女子バドミントンは6日から8日までの3日間、メモリード・シーハット大村で行われた。

は慣れないショートサ
ブに苦戦したが、相手の
弱点を見つけてすぐに対
応できた」と冷静に振り
返った。試合中、スマツ
シュが決まるたびに力強
い声がコートに響き渡り、
ガッツポーズからは勝利
への強い執念が感じられ
た。その姿は観客の心を

決勝進出ならず

0.2秒に泣いた夏

「ありがとう」 水泳部の集大成

水泳競技は個人の限界に挑み続ける競技で、一瞬の差が結果を大きく左右する。大会では、日々の練習で積み重ねた努力を胸に選手たちがそれぞれの種目に挑んだ。結果は決して思い通りとは言えなかったが、泳ぎ切る姿や仲間を思う言葉には、これまで積み重ねてきた時間と強い絆が表れていた。

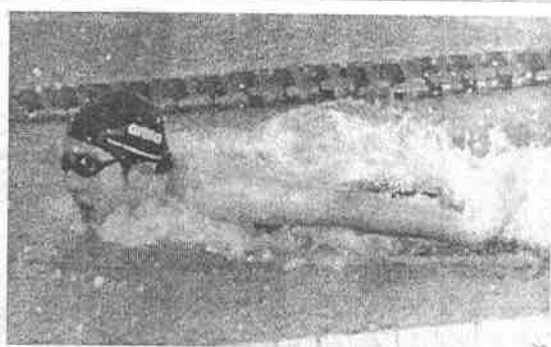


笑顔でポーズする水泳部員

水泳競技は6日、7日の2日間、長崎市民総合プールで開催され、200m自由形や50mバタフライなどに出場したが、いずれの種目においても予選敗退という結果に終わった。

キャプテンの下釜宇宙さん(313)は50mバタフライに出場し、0.2秒差で決勝進出を逃した。「呼吸の回数を増やしたことでテンポが乱れてし

水泳競技は6日、7日の2日間、長崎市民総合プールで開催され、20



50m バタフライに出場した柳澤さん

スマッシュを打つ福島さん



スマッシュを打つ福島さん

動かし、会場の熱気を高めた。3回戦は強豪・向陽高校と対戦した。苦戦を強いられながらも最後まで粘り強く戦い抜いた。試合後、「3年間ありがとう。みんなの支えがあつたから困難を乗り越えられた」と、仲間への感謝を口にした。

■団体戦

団体戦は8日に行われた。キャプテンの高野心愛さん(3-2)と副キャプテンの松尾美沙さん(3-5)は「悔いを残

さないう、仲間と協力し全力で戦う」と意気込みを語っていた。1回戦は長崎北高校と対戦。高野さんと本多麻莉さん(315)ペアのダブルスは、第1セットを奪われたものの、第2セットでは息の合ったプレーで取り返す。最終セットでは声を掛け合いながら果敢に攻めたが、あと一歩及ばず、2点差で惜敗した。高野さんと本多さんは「自分たちのプレーを出し切るため序盤から全力で臨んだ」と涙ながら振り返った。日頃から連意識してきた声掛けと連携は、特に第2セットで大きく発揮された。顧問の角田先生は「本番で練習の成果を出す難しさを感じたと思うが、この経験を今後に生かしてほしい。3年生は本当にお疲れさま」と選手たちをねぎらった。(池)

この20年、自由刑にこ2年間タイムが伸び悩んでいたが、今回は高校入学後で最も良い記録を出すことができた」と、手応えを感じている様子であった。橋本舜さん（115）は、「3年生にとつて最後の大会であつたが、互いに励まし合い、支え合うことができたことがよかった」と振り返つた。下釜さんは後輩に向けて、「1年生には決勝進出にとどまらず、九州大会や全国大会を目指して努力を続けてほしい」と力強く語つた。

今大会で引退を迎える3年生は、幼少期から支えてくれた指導者や保護者、顧問、そして仲間への感謝をそれぞれ口にした。競技結果以上に、長年の努力と絆が感じられる大会であつた。最後まで全力で泳ぎ切った選手たちに、心から拍手を送りたい。（山下）